

集会を開催致しました。

今回の学術集会のメインテーマは、『医療の質、組織の質、経営の質向上を目指して—もう一步先の医療マネジメントへ—』に致しました。

なかでも、医療安全については医療人としてのモラル・生命に対する尊厳や患者さんへの思いやり・博愛の精神をもち、常に100%を目指さねばなりません。そこで、『シンポジウム』・『特別講演』のテーマとして取り上げました。シンポジウムの5演題を含め、総計62演題の発表を頂きました。

総勢252名の皆さんの参加を頂き、社会情勢に応じて新しく変わってゆくニーズを捉え医療現場でどのような変革を行うべきか、熱い討論を展開致しました。皆様のご参加感謝申し上げます。

### 第5回群馬県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構高崎総合医療センター院長 石原 弘



会場風景

2016年2月7日(日)快晴の中、群馬県高崎市の高崎シティギャラリーにおいて、「地域をつなぎ、地域がつながり、地域で支える～医療は

地域のために何をすべきか～」をテーマに第5回群馬県支部学術集会を開催しました。

当日は、医師、看護師、薬剤師はもとより、ケアマネジャー、調剤薬局の薬剤師、訪問看護師、ディサービス職員など様々な職種から334人の参加をいただきました。

特別講演では、未来医療研究機構代表理事の長谷川 敏彦先生から「大地殻変動期にある、日本の医療・医療マネジメント・病院～新たに提案された「ケアサイクル」理論から未来をひもとく～」と題して、今後の我が国における人口構造の変遷予測に基づき、医療の目的の転換、福祉ケアとの統合、提供システムの再構築など、本学術集会のテーマにある「医療は地域のために何をすべきか」の「答え」をちりばめた内容で講演をいただきました。

他に、第1会場、第2会場に分かれて、10テーマ60演題の発表があり、予定時間を超過して活発な意見交換をしていただき、今後、益々、医療・介護・福祉の連携が地域に必要であると認識しました。

皆様のご協力により、盛会裏に学術集会を開催できましたことに感謝して開催報告といたします。

### 第11回和歌山支部学術集会

学術集会会長：和歌山県立医科大学附属病院病院長 吉田宗人



会場風景

2016年2月13日(土)、「これからの医療を考える—組織マネジメントと圏域マネジメント—」をメインテーマに、和歌山県立医科大学三葛キャンパスにおい

て、日本医療マネジメント学会第11回和歌山支部学術集会を開催いたしました。

和歌山県内の各施設から約220名の方が参加されました。

口演26題、ポスター発表25題、各施設の取り組みについて発表があり、活発な意見交換がありました。

特別講演では、四国医療産業研究所所長 櫃本真事様をお招きし「地域包括ケア時代 医療を生活資源に～生活に戻すための医療を目指して～」と題してご講演をいただきました。

また、他にも、シンポジウム2題、ランチョンセミナー1題を行ない、これからの和歌山県における医療提供体制、それぞれの医療機関の役割などについて考える有意義な1日となりました。

最後に、本学術集会の開催、運営にご協力いただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

### 第15回千葉支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構千葉東病院院長 新井公人



会場風景

2016年2月27日(土)、淑徳大学看護栄養学部において『地域と医療2016』をメインテーマに第15回千葉支部学術集会を開催致し、122名

の方々にご参加いただきました。地域医療ではなく、地域と医療と取って「と」を入れさせていただきましたが、これは「地域医療」という、医療の一分野としての特別な医療があるのではなく、「地域」と「医療」の調和のとれた発展こそ、わが国がこれから目指すべきものだからです。

前半は一般演題11題、要望演題(地域医療)4題の計15題が集まり、いずれも充実したレベルの高いご発表をいただきました。